



# 藤木小だより



学校教育目標 自ら学び 思いやりのある たくましい子どもの育成

〒808-0071 若松区今光一丁目18番1号 TEL 791-2731 FAX 791-2732 校長 和田 宜之

## 平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

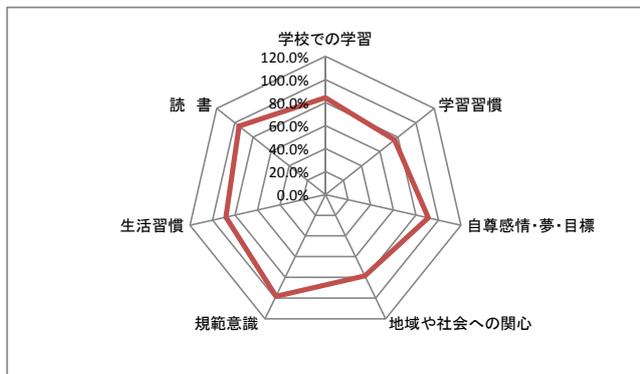
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	・全体的に、インタビューに関する問題の正答率が高かった。 ・「漢字を文の中で正しく使う」と「文と文とつながりを考え、接続語を使って内容を分けて書く」問題の無解答率が高かった。	同程度である
算数	・全体的に、棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取る問題の正答率が高かった。 ・示された解き方を基に、その求め方を記述する問題の無解答率が高かった。	下回っている

### 2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



#### 質問紙調査の結果分析

- ・学校のきまりを守っていると回答した児童が90%であり、落ち着いて学校生活を送ることができていることが伺えた。
- ・すべての抜粋領域で全国の結果を下回っている。
- ・家庭学習時間が1時間以上の児童が4割弱と、全国より大きく下回っている。「家庭学習チャレンジハンドブック」や「藤木スタイル」等を活用して、家庭学習の定着を今後も図っていく必要がある。
- ・朝食や就寝時間など、生活習慣に関する肯定的回答が全国に比べて低い。「早寝・早起き・朝ご飯」や「携帯・スマホ電源10時OFF」を家庭・地域と連携して今後も徹底していく必要がある。

### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・各教科で、問題解決型の学習を行い、思考力・判断力・表現力等の育成に努め、教師の授業力の向上を図る。
- ・授業の中で、フラッシュカード等を用いた反復練習を行い、既習事項の定着を図る。
- ・学力定着サポート週間を継続し、児童のつまづきを分析し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・フィルターの取付や使用時間など、携帯・スマホ等の取扱いを児童に啓発し、管理・約束の徹底を家庭に呼びかける。
- ・「藤木スタイル」で紹介された学習方法を参考に、児童が家庭学習に取り組むように、家庭と連携を図っていく。
- ・「家庭学習チャレンジ週間」を継続し、家庭学習の習慣化を今後も図っていく。